



「はっくつかわら版」は、8月の創刊号以来、今号で第10号を数えることになりました。発掘現場に掲示すると同時に市のHPにも掲載し、多くの方に発掘調査の進捗状況をなるべくリアルタイムでお届けしています。

小牧山城の発掘調査は、今月、新聞・TVなどさまざまなメディアにも登場するなど、注目を集めているところです。

M区のポンプ施設下方で確認された石垣（下段）は、かわら版第6号で取り上げたように一直線に続いていましたが、その延長でおよそ90度屈曲していることが判明しました。



すみかどいし

隅角石 見つかる

石垣の屈曲ライン（破線）



隅角部（屈曲部）には他と比較して大きな石（隅角石）が配置されています。この石の形状が立方体に近いことから、後の石垣で一般的に採用される「算木積」という技法を使わずに築いた、極めて初期の石垣であるということが改めて裏付けられました。

発掘ひとくちメモ

さんぎづみ ～「算木積」とは～

城の石垣の隅部の構築技法のひとつで、慶長10年（1605）以降に完成する技術です。算木はそろばんが伝来する以前に計算に使われた棒のことで、隅石の形が算木に似た長方形の棒状であることから命名されました。隅石の長辺と短辺を一段ごとに互い違い組み合わせることで石垣の隅部を補強し、崩れにくく高い石垣の構築が可能となりました。



算木積の石垣隅角部（香川県・高松城）

調査中ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします

小牧市教育委員会